

I 港区立赤坂子ども中高生プラザ概要

1 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

赤坂子ども中高生プラザ（以下、「プラザ」という。）は、児童を権利行使の主体として捉え、港区立子ども中高生プラザ条例（以下、「条例」という。）に基づき、下記の基本理念を掲げ、子どもの権利を擁護し、健やかな成長を願って事業の運営を行ってきました。

- ① のびのび楽しく過ごす心を持ち、ありのままの自分に力があることを自覚し、自主的に活動を進められるように支援します。
- ② じっくりと考える力が育つように働きかけ、仲間とともに協力し、自治を作っていく力を育てます。
- ③ 一人ひとりの違いを認め合いながら、人間として温かな心を育むよう支援します。
- ④ 生き生きと健康な身体を作ることを働きかけ、児童の体力増進のための活動を進めます。
- ⑤ 中高生が心地よく過ごせる居場所となるよう環境を整え、支援するとともに、自主的に文化、芸術、スポーツ活動の向上を図れるよう、活動を進めます。
- ⑥ 地域の乳幼児や小学生と子育て中の保護者が、主体的に、生き生きと安心して過ごせる場を作ります。
- ⑦ 学童クラブの子どもたちが生活の場として安心して過ごし、個々の力を伸ばせるよう働きかけます。
- ⑧ 地域との連携を深め、協力、交流を行うための組織を作り、活動を進めていきます。
- ⑨ 児童に関わる情報収集に努め、発信、提供の場になれるようにします。

(2) 全体の運営方針

- ① 来館者一人ひとりのベスト・インタレスト（最善の利益）を出発点とした運営を行います。
- ② 地域をステージとした多様な活動に参加できるよう、拠点施設としての運営を行います。
- ③ 児童が友情を育み、仲間と集える「居場所」を共に作っていく運営を行います。
- ④ 障害のあるなしに関わらず、だれもが自分らしい選択で活動できるノーマライゼーションの考えに基づく運営を行います。
- ⑤ 子育て中の家庭を支援し、親も成長できるよう、共生の視点から運営を行います。
- ⑥ 高齢者施設との交流を深め、世代間交流を促進する運営を行います。
- ⑦ ボランティアの育成に努め、社会参加への機会となる運営を行います。
- ⑧ 利用者の個人情報保護の適正化に取り組むとともに、職員の倫理綱領に基づく行動規範を遵守し、サービスの質の充実を図ります。
- ⑨ 地域に信頼され、親しまれる施設、より一層賑わいのある施設を目指します。
- ⑩ 平成30年度は、乳幼児を重点対象とし、保護者の声を十分聴いて、企画に反映させます。

(3) 具体的な方針

条例に基づき、児童が心身ともに健やかに成長し、豊かな情操を育むようにするため、大型児童センターとしての役割を果たしつつ、「地域とともに育つ」という視点から、開かれた施設づくりを進めます。この観点により、乳幼児から18歳未満の児童の心のよりどころとなり、かつ“居場所”として、児童の体力増進、文化・芸術活動の拠点になるよう、企画運営を行ってきました。

- ① 地域とともに育ち、信頼される施設を目指し、開かれた施設づくりを推進します。
 - ・ 児童が安全に、安心して過ごせる施設運営を行います。
 - ・ 児童の遊びや体力増進、文化・芸術の拠点となるような企画と運営を目指します。

- ・ 児童を優先しつつ、地域のニーズに柔軟に答えられるよう、開かれた施設運営を行います。
 - ・ 児童に関する関係機関、なかんづく近隣の機関等と連携し、有機的なネットワークを構築します。
 - ・ 学童クラブにおいては、児童の健全育成に十分配慮し、更に充実した運営を目指します。
 - ・ 港区の「子どもの未来応援施策」実現に向け、中高生の居場所機能を充実させるよう取り組みます。
- ② いろいろなニーズを持った児童が参加しやすいように、常に利用者の状況を把握し、自主的な活動を支援し、ともに行動しながら、交流する喜びや満足を感じられるような活動内容を提供します。
- ・ 職員の専門性を高め、質の高いサービスを提供します。
 - ・ 中高生に対しては、地域等の協力も得ながら、本物の文化、芸術、スポーツなどの素晴らしさを伝えられるような活動を展開していきます。
 - ・ 児童が自主的に参加できる場所として、児童の欲求を敏感に捉えながら、自主的な活動を進められるよう、配慮をしていきます。
 - ・ 障害児の夏季休業日等の受け入れに、適切に対応し支援します。
- ③ 高齢者施設との交流を大切にします。
- ・ 併設の高齢者施設を利用される方々と、日常的に自然な交流ができるよう工夫し、世代間交流ができるような活動を企画します。
 - ・ 高齢者施設との交流については、ボランティアや見学も行うとともに、併設の高齢者施設と連携し、児童がより高齢者福祉に興味、関心を持つことができるような機会を設けます。
- ④ 平成30年度は、乳幼児を対象に、「子育て、子育ち、親育て」を念頭に置いた活動の実現を重点目標として掲げ、支援していきます。
- ⑤ 平成30年度は、9月下旬～2月にかけて、アリーナの天井補強等工事が実施されるため半年近い期間アリーナが使用できなくなることから、アリーナでの企画・行事等については、規模縮小や代替施設の確保等により、可能な限り継続的な実施を目指します。

2. 利用日時

(1) 赤坂子ども中高生プラザ

条例等に基づき、次のとおり行いました。

【開館時間】

午前9時30分から午後8時

(小学生の利用は、ひとりで帰れる時間を考慮し、「午後6時まで」を推奨)

※障害児夏季休業日等支援事業による受入れ拡大 午前8時30分から

【開館曜日】

月曜日から日曜日

(ただし、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始の12月29日から31日及び1月2・3日は休館)

年末施設開放12月29、30日午前9時30分から午後8時

(2) 学童クラブ

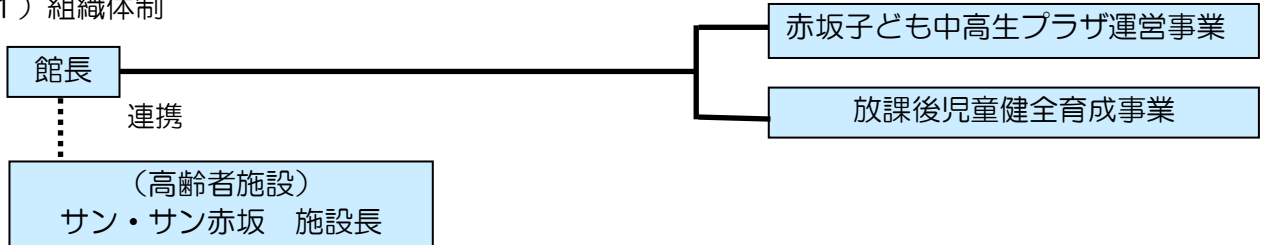
港区学童クラブ運営要綱に基づき、利用日及び時間について、次のとおり行いました。

① 月曜日から金曜日 下校時から午後7時 土曜日 午前8時から午後5時

② 学校休業期間中 午前8時から午後7時（但し、土曜日は午後5時、日曜日は休室）

3. 運営管理

(1) 組織体制



(2) 職員体制

区分	館長	事務員	児童指導員			その他	合計
			プラザ	学童クラブ	子育て広場		
正規・常勤	1		7	5	2		15
非正規	常勤		1	1		1	3
	非常勤	2	3	2	2	3	12
計	1	2	11	8	4	4	30

平成31年3月31日現在

II 赤坂子ども中高生プラザ運営事業

1 平成30年度 運営方針・指導の重点（学童クラブ共通）

(1) 年度運営方針

- ① 平成30年度9月下旬～2月末（予定）にアリーナ天井等修繕工事が実施されることから、小学生、中高生世代の来館者数が減少することが想定される。こうした制約の下でも恒例の企画・事業を維持するため、規模縮小や近隣の代替施設を活用し、可能な限りサービスの維持に努めた。
- ② 平成30年度は、「乳幼児親子世代」を重点とし、「子育て・子育て・親育て」を念頭においた活動の実現、環境づくり、仕組みづくりに重点をおいた運営を図った。

(2) 指導の重点

- ・児童から、赤坂子ども中高生プラザに「また遊びに来たい！」と思われるよう、職員との関係づくり、企画運営に工夫をした。
- ・赤坂子ども中高生プラザが赤坂地区の子育て支援の拠点として、「なんで～もに來れば安心して過ごすことができる、心のホットステーション」となるよう指導・支援をねらいとした運営を行った。

(3) 主な取り組み

- ① 年齢別グループ「こぐまさん」活動

	変更点	
	平成29年度	平成30年度
参加対象	主にH23.4.2～H27.4.1生まれの乳幼児と保護者	H27.4.2～H28.4.1生まれの乳幼児と保護者（年齢固定）
募集人数	定員なし フリー登録制	25組 定員制
実施内容	年間計画を立案し、手遊び、音楽遊び、工作、読み聞かせ、運動遊び、ふれあい遊び、食育などを実施	発達に応じた年間計画を立案し、定期的にリトミックや運動遊びの講師による指導、手遊び、音楽遊び、工作、読み聞かせ、ふれあい遊び、食育、外遊びなどを実施
主なねらい	参加対象年齢設定を行っているが、学年が違う幼児が参加することにより、プログラム内容を複数通り用意し、異年齢交流を行う。	参加年齢設定、人数を固定することにより、発達に応じたプログラムの提供を行い、参加者同士の絆、交流を深めてもらう。
実施回数	通年（40回）	参加人数 1,149名
結果	<ul style="list-style-type: none"> 定員制にしたことにより、昨年度よりも同グループの参加人数が増えた。子どもだけでなく、保護者も積極的に活動に参加していた。 人数を固定したことによって、仲間意識が高まり、子どもたちや保護者同士の交流が増えた。また、グループ分けをしたことによって、普段話さない人との交流もできていた。 定員制で出欠を管理したことによって、頑張っ活動に参加しようという意識を強く持ってもらった。また、継続的にグループ活動に参加したことによって、子どもたちは集中して工作等の作業に取り組むことが出来るようになった。 講師企画を行うことによって、子どもたちにより専門的な活動を提供することができ、保護者からも好評だった。 	

②乳幼児・保護者意見広聴の場の設定

企画名	キッズ・なんで～も委員会（保護者委員会）
実施回数	5回
参加人数	141名
主なねらい	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児保護者を対象とする広聴の場を、活動毎にするのではなく、各年齢別グループ活動内などにおいて、企画リクエスト当の調査・聴取を行い、それらのリクエストに応える企画を実施していきたい。 乳幼児保護者がプラザ運営に参画してもらい、なんで～もが地域の方々の「居場所」と感じてもらえるようにする。
結果	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動に取り入れてほしい内容や好評だった企画、バスハイクの行き先の希望など、保護者の声を直接聞くことができ、活動に取り入れることが出来た。 ゆっくり話す時間が取れ、保護者と職員との交流にもなり、親睦を深めることができた。

③グループ活動に参加しない乳幼児親子の居場所の確保

キッズルーム内において、部屋を専用にしたプログラムを実施している際、そのプログラムに参加をしていない乳幼児親子の居場所が十分に確保できていない現状があった。

そこで、平成30年度は、キッズルーム以外の部屋を、遊べる場・居場所となるよう環境整備を行ってきた。

部屋名	改善点
ラウンジ	カーペット部分に、遊具等を配置し、自由遊びの場とした。 中高生ルーム「学び舎」横に、キッズ専用スペースを確保した。 乳幼児優先機の場所を、キッズ専用スペース前に移動させ、保護者が見守りしやすい環境を設定した。

メディアルーム	カーペット部分に、乳幼児用遊具を配置し、自由遊びの場とした。
---------	--------------------------------

(4) 総括

- ・年齢別グループ「こぐまさん」を固定年齢および参加人数の定員を設けたことにより、参加者同士の交流が深まり、結果参加幼児をはじめ、子育て中の保護者同士の絆が深めることができた。
- ・グループ活動に参加しない乳幼児親子等に対しても、居場所・遊び場を確保したことにより、利用者の選択の幅を拡げられた。

2 児童館事業

(1) 小学生対象の事業

定期活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	ペーパークラフト	パソコンを使った工作 (季節に関連するもの、車や人形、バック、箱等)	約200名
通年	ローマ字検定	決められた時間の中でローマ字入力を習得し、検定を受ける	約120名

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(16回)	期間工作	小学生向けのおすすめ工作を月に1~2回、作り方の掲示や材料を用意し、提供	約1,200人

特別活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(1回)	ローマ字検定王	通常のローマ字検定とは異なる内容でローマ字タイピングの練習を行う。	6人
通年(2回)	リクエストシアター (アリーナシアター)	映画等をステージの大画面で上映するうち、1回はなんで〜も委員会発案。	70人
通年(21回)	月間企画	制作活動 季節に関する製作活動 インターネット講習会など	267人
年1回	絵画コンテスト	パソコン・アプリ「ペイント機能」を使った絵画のコンテスト	9人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
65回	月間企画	テーマ・材料を決めての工作など	684人
6回	陶芸教室	講師指導による陶芸活動 (お皿、マグカップ作り)	48人
2回	高学年企画	高学年向けの材料、道具を使ったアクセサリー作り、工作等	18人
6回	料理活動 クラCOOKタイム	ランチ作り・おやつ作りなど ※乳幼児を除く。	127人

※「クラCOOK」の「クラ」とは、「クラフト」の意味。

【スタジオI】

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	伝統文化	講師指導による茶道体験	10人
10回	音楽活動	ハンドベル (Ring Dong ず) の演奏体験、館内発表会への出演	86人
6回	ことさん	講師指導による箏・三味線の演奏体験、館内発表会への出演	92人

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
52回	月間企画	集団遊び、スポーツ企画 (ザ・卓球教室、王様バドミントン等) リクエスト企画 (雪玉合戦等) 表現活動 (一輪車、ダンス等) ※工事期間中は中庭での活動 ※アリーナに集合は含まず	672人
18回	ドッジボール	港区児童館ドッジボール選手権大会に向けた練習	450人
1回	講師企画	利用者からリクエストのあった一輪車の指導	19人

※アリーナシアターはメディア企画として報告。

※港区児童館ドッジボール選手権大会に参加

【その他】

- ・新入生対象館内スタンプラリー開催、参加者39人。
- ・赤坂・青山共育フェスタに「ムジカ ディ バンビーノ」「DANCE クラブ」参加
- ・港区小学生バスケットボール大会の見学に「バスケットボールクラブ」参加

(2) 中高生対象の事業

定期活動

【なんで～も委員会】

実施回数	活動	内容	参加人数
第3日曜日 (12回)	委員会 (年間登録)	プラザ(館)の運営に関する話し合い、 活動内容の検討など	78人
	プロジェクト (企画チーム活動)	企画検討・実施準備、活動実施	

※納涼祭、文化祭にて「なんで～も委員会の店」出店

【中高生居場所事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	まなび舎	ラウンジ内に専用の勉強コーナーを設置し、 自主学習の場の確保 中高生の交流の場の確保	1,216人
第2火曜日 (12回)	NAN-CAFE	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが、菓子類や飲料を飲食しながら語り合い交流する「しゃべり場」	168人
第3火曜日 (12回)	NAN-COOK	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが、軽食を調理し食しながら語り合い交流する「しゃべり場」	91人
8回	NAN-SPO	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などとスポーツで交流する ※アリーナ改修工事中(10月～1月)は、中止とした。	63人
第4日曜日 (12回)	TBP	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB大学生などが語り合い、該当月に誕生日を迎える中高生をお祝いし、交流する	116人

特別活動

【中高生居場所づくり事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	館内宿泊「まなび舎 in なんで～も」	・長期休業期間中の宿泊を伴った自主学習支援企画 ・大学生ボランティア等による学習支援	7人
14回	まなびちゃん	大学生ボランティア等による学習、スポーツ交流、進路相談会	86人

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
2回	中高生 メディアシアター	中高生のリクエストによる映画鑑賞会	11人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
6月 7月	納涼祭小物づくり	納涼祭出品「プラバンクリップ」の作成	12人
9月 10月	文化祭展示作品づくり	文化祭展示作品「折り紙アート」の作成	36人
2月	中高生クラフト プラザニア工作	プラザニア出品「わりばし鉄砲」「ティッシュケース」などの作成	6人

【スタジオⅠ】

実施回数	活動	内容	参加人数
2回	ダンスレッスン	講師指導によるダンス指導	17人

【スタジオⅡ】

実施回数	活動	内容	参加人数
12回	予約会議	スタジオ利用に関する次月の予約、連絡調整、バンド交流	165人
2回	バンド総会	バンド同士の交流、より良く利用するための会議	45人
2回	バンドレッスン	講師による技術的なバンド指導	18人

※港区中高生プラザ5館合同ライブ、SWING 赤坂にも出演（別掲）

【アリーナ】

※プラザカップ（港区プラザ中高生フットサル交流大会）、
港区プラザ中高生バスケットボール交流大会、
中高生フットサル交流に参加（連携行事にて報告）

(3) 全年齢対象の事業

特別活動

【ラウンジ】

実施回数	活動	内容	参加人数
12回	月間企画	歌、紙芝居、読み聞かせ等 ボードゲーム大会、季節のお楽しみ会	295人

※スクールサポーター（赤坂警察署）による交通安全教室、消防署員による火災予防講話も開催（別掲）

【メディア】

実施回数	活動	内容	参加人数
36回	メディアシアター	大型テレビを使っでの映画上映。	1,088人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
12回	じっくり週間ワークショップ	(4月の新入生対象企画) テーマ・材料を決めての工作等	306人
通年(12回)	期間工作	乳幼児からおすすめの工作を月に1~2回、作り方の掲示や材料を用意し、提供	約1,200人

【スタジオI】

実施回数	活動	内容	参加人数
5回	スタジオじっくり週間	(4月の新入生対象企画) シルバニアファミリーなどの人形を用意	53人
6回	あそべるスタジオ~あそスタ~	ピアノ、カラオケ、ボードゲームなど各種遊びを用意	68人

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
23回	アリーナに集合	子どもリクエストによる集団遊びやスポーツ ※乳幼児を除く。 アリーナ工事期間中は中庭で実施。	555人

【その他】

実施回数	活動	内容	参加人数
6月 10月 12月 3月	忘れ物展示会	館内で届いた落とし物・忘れ物を展示 (期間:各1週間)	約3,900人

3 子育て広場事業

(1)「乳幼児と保護者」対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年(40回)	りすさんグループ (はいはい・よちよち)	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	653人	H29.4~ H30.4.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(33回)	りすさんグループ (ねんね)	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	842人	H30.4~生まれ の乳幼児・保護者

通年(45回)	うさぎさんグループ	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど	1,328人	H28.4～ H29.4.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(40回)	こぐまさんグループ	手遊び、音楽遊び、 工作、読み聞かせ ふれあい遊びなど 登録制で25名定員	1,149人	H26.4～ H28.4.1 生まれ の乳幼児・保護者
通年(37回)	わいわいクラブ	アスレチック、リ ズム体操、かけっ こ、集団遊び、ふ れあい遊びなど	1,042人	幼児(2歳以上)・ 保護者
通年不定期 (6回)	運動あそび	アスレチック、リ ズム体操、かけっ こ、バルーン、ふ れあい遊びなど	145人	りす・うさぎグル ープ・保護者
通年(21回)	FCなんで～も	幼稚園児対象とし たサッカーを中心 とした運動遊び	438人	幼稚園児・保護者
通年(20回)	なんで～もであそぼ 1, 2, 3	楽器遊び、歌遊び、 リトミックなど音楽 を主題とした活動	301人	乳幼児と その家族
通年(12回)	アトリエなんで～も	幼稚園児対象で、講 師を招いた造形活動	200人	幼稚園児
通年(12回)	ファミリータイム	季節にちなんだ食 育やクラフト活動	129人	乳幼児と その家族
通年(22回)	たんぽぽクラブ	民生・児童委員によ る子育て支援活動	322人	乳幼児・保護者
通年(月～金) (241回)	お昼の体操	幼児向けのダンス を中心とした活動	2,764人	乳幼児・保護者
夏季(21回)	キラキラプール (水遊び)	「ふれあい広場」 での水遊び	581人	乳幼児・保護者

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年(2回)	みなと保健所と の連携事業	① 歯科衛生士の講話 ② 環境衛生士の講話	① 29人 ② 16人	乳幼児・保護者
通年	講師による企画	①ベビーマッサージ ②骨盤リセットヨガ ③保護者対象ヨガ ④リトミック(全6回) ⑤英語で遊ぼう ⑦子どもの才能発見講座 ⑧ベビーサイン ⑨産前産後の骨盤ケア	①20人 ②14人 ③9人 ④156人 ⑤33人 ⑥39人 ⑦25人 ⑧27人	乳幼児・保護者

通年 (6回)	赤坂図書館との 連携事業	各グループ活動内にて 「おはなし会」	154人	乳幼児・保護者
------------	-----------------	-----------------------	------	---------

(2) 保護者対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(17回)	保護者対象 製作企画	陶芸教室 PC教室 年賀状づくり など	157人
通年(11回)	保護者対象 ファミスポ	リフレッシュを目的として、バド ミントン、卓球などを実施	65人
通年(10回)	な～んでも 「お聞きします」 (日本ガーディアン・ エンジェルスとの連 携事業)	日本ガーディアン・エンジェルス から派遣されたボランティア相談 員「スマイルさん」(心理士等)に よる相談活動	282人
通年(5回)	こころスッキリ 「ここスキ!!」	職員と保護者との交流・相談事業	65人

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数
1回	子育て講話	子どもへの注意や叱責の仕方 ～子どもの気持ちを察する～	26人
1回	子どもの才能発見 講座	「個別因子統計分析学」を基に子 育てのヒントをもらう	39人
通年(8回)	NP(ノーバディー ズ・パーフェクト) プログラム	子育て中の親のグループワーク (親支援プログラム)	159人
1回	赤坂消防署との 連携事業	乳児の救命救急講習会	23人
1回	サン・サン赤坂との 連携事業	サン・サン赤坂職員による「認知 症サポーター講座」	3人

(3) 妊婦対象事業・父親対象事業・乳児対象事業

特別活動

実施回数	活動	内容	参加人数
通年(3回)	リサイクルタイム	先輩ママから後輩ママへ 育児品のリサイクル	239人

通年(1回)	妊婦対象事業 プレママ応援企画	妊婦対象マタニティヨガ	0人
通年(2回)	父親対象事業 イクメン応援企画	①「川口グリーンセンター」への遠足 ②イクメン・イクバア・イクジイ応援企画！陶芸教室 手形足形プレート	①29人 ②18人
通年(3回)	乳児対象企画	赤ちゃんずもう、はいはいレース	60人

4 年間行事報告

(1) 事業計画に基づく行事

実施月	活動	内容	参加人数	対象
4月	ウエルカムなんで～も	1年生ゲームタイムなどの入学お祝いとクラブ紹介	124人	小学生～中高生
5月	子どもの日行事	足湯やミニゲームなどを行い、こどもの日を祝う行事	158人	全児童・保護者
	パパと行こう！ ワンダーフォーゲル	「川口グリーンセンター」への遠足 父親育児応援企画として開催。	29人	全児童・保護者
6月	親子交流行事 (バームクーヘン)	家族間交流。バームクーヘンを実施する。	22人	全児童・保護者
	ロハスキッズ	親子運動会	84人	乳幼児・保護者
7月	納涼祭 (サン・サン& なんで～もまつり)	食べ物模擬店、ゲーム模擬店、ステージ発表など	1,588人	全児童・保護者・ 地域住民
8月	低学年バスハイク	「ズーラシア」「オービィ横浜」へのバス遠足を楽しむ	85人	小学校1～3年生
	中高生館内宿泊 (まなび舎)	中高生が自分たちで企画し、館内に宿泊	7人	中高生
	Summer Live 2018	中高生によるバンド、ダンスの発表	98人	中高生
	プラネタリウム	アリーナでプラネタリウムを楽しむ	190人	全児童・保護者
9月	キッズシアター	外部団体による絵と音楽のコラボコンサート及びキッズの発表	80人	乳幼児・保護者・ サン・サン赤坂利用者、 近隣保育園
	高学年キャンプ	「さしま少年自然の家」でのキャンプ(1泊2日)	12人	小学校4～6年生

10月	乳幼児バスハイク	「こどもの国」へバスで遠足	50人	乳幼児・保護者
	あきる野 里山体験	あきる野市西戸倉へのバス遠足（自然体験）	37人	小学生～高校生 ・保護者
11月	文化祭典	国際交流や射的等のゲーム店。クッキングクラブ、国際交流等の食べ物やさん。クラブ等のステージ発表、作品展示など。	533人	全児童・保護者・ 地域住民
12月	たんぼぼクラブ クリスマス会	民生・児童委員と共催のクリスマス会	80人	乳幼児・保護者
1月	中高生音楽表現発表会 (Teen's Live AKASAKA)	中高生によるバンド、ダンスの発表	115人	全児童・保護者・ 一般の方
2月	もちつき (児童・高齢交流)	もちつきの実施	156人	全児童・保護者
3月	クラブカーニバル	各クラブの活動のまとめ、及び活動の成果発表	308人	小学生・中高生
	PlaZania	小学生企画で準備をし、オリジナル通貨を使ったお店屋さんごっこ	308人	全児童・保護者
	キッズランド	年令別グループの交流発表会、ゲーム模擬店など	106人	乳幼児・保護者
	中高生交流行事 (焼肉パーティー)	焼肉パーティー、交流会	30人	中高生

(2) 連携行事

実施月	活動	内容	参加人数	対象
4月・9月	交通安全教室	赤坂警察署・スクールサポーターによる交通安全ルールなどの講話	17人/26人	全児童・保護者
6月	プラザカップ (港区中高生 フットサル交流大会)	港区の中高生プラザ4館との交流大会	9人 (当館からの参加者)	中高生
8月	港区5館合同 LIVE Minato Music Mates	赤坂、港南、高輪、神明、麻布の5プラザ共催で、交流を目的とした Live を開催	40人 (来場者含む)	全児童・保護者・ 一般の方
10月	港区児童館ドッジ ボール選手権大会	港区の児童館との交流大会	13人	小学生
11月・3月	火災予防講話	赤坂消防署員による火災予防の講話	24人	全児童・保護者

11月	赤坂・青山共育 フェスティバル (檜町公園)	赤坂・青山地区の企業・団体が集まり、様々な活動を提供。「なんで〜もロケット作り、合唱・ダンス」で参加、協力	34人 (出演児童)	全児童・保護者
	プラザカップ (港区小学生 フットサル交流大会)	港区内6プラザ合同の小学生フットサル交流大会。低学年と高学年に分け総当たりの試合を実施	20人	NDM5登録者
12月	港区児童館交流会	港区内の児童館が集まり、日頃の活動を発表し交流を深める。「ダンスクラブ」クラブが出演	26人	ダンスクラブ登録者
	港区プラザ中高生 バスケットボール 交流大会	港区プラザ合同のバスケットボール交流試合	0人	中高生
2月	港区小学生 バスケットボール 児童館交流大会	港区児童館対抗 バスケットボール大会	10人	小学生
	港区児童館 卓球交流大会	麻布・高輪子ども中高生 プラザを招き、交流試合	41人	小学生～ 中高生

5 クラブ・サークル活動

<クラブ>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
37回	レッツ!バトン	バトントワリング・チアダンス(講師指導)	1,023人	小学生～中高生
14回	クッキング・ プチクッキング	料理活動・お菓子作り	254人	小学生～中高生
36回	ムジカ・ディ・ バンビーノ	合唱・合奏	307人	小学生～中高生
35回	DANCE	ダンス(講師指導)	936人	小学生～中高生
49回	NDM5	フットサル(講師指導)	572人	小学生
27回	バスケットボールクラブ	バスケットボール (10月～講師指導)	399人	小学生

※レッツ!バトンクラブは「SWING 赤坂」「区民まつり」「なんで〜も文化祭」「クラブカーニバル」に出演

※ムジカ・ディ・バンビーノクラブは、「地域懇談会」、「共育フェスティバル」「なんで〜も文化祭」「クラブカーニバル」に出演

※バスケットボールクラブは「港区プラザ児童館交流会」に参加

※NDM5は、親子交流会を年2回開催

<保護者自主サークル>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年 (18回)	美容体操サークル	講師を招いての 「ピラバレッチ体操」	304人	なんで～もを利用している児童の保護者
通年 (17回)	Kinana (フラダンスサークル)	講師を招いての フラダンス練習	139人	なんで～もを利用している児童の保護者

6 相談活動

主にキッズや学童クラブの保護者、クラブに所属している児童の保護者などから相談を多く受けた。また、中高生は信頼関係を築いた職員に相談するため、出勤日を確認して来館する児童も見られた。その他、電話での育児相談も数件あり、中には職員を指名して継続的に相談するケースもあった。

相談活動の一環として、昨年度より乳幼児活動の「ここスキ！！」保護者相談会を始めた。あらたまった相談の場ではなくとも、保護者が気軽に相談や育児についての質問を行えるように配慮した活動で、職員との雑談の中から自然に悩みや子育ての大変さを打ち明けてくれることもあった。職員は、より親しみやすく、保護者の気持ちに共感しながら傾聴することを心がけた。

種別	主な相談内容	対象
電話・来館	小学生 ・友人関係について 中高生 ・思春期について ・進路について 保護者 ・トイレトレーニングやおむつ離れについて ・お箸を持たせるタイミングについて ・イヤイヤ期について ・子どものしつけについて ・自分の時間がなくて、辛い など	小学生・中高生 ・保護者

7 子ども・保護者委員会

昨年度行って好評だった「小学生なんで～も委員会」を、さらに展開し4回行った。小学生が意見を言いやすいように、アリーナ、クラフト、メディアでの活動等と、各回テーマを絞り、企画についての意見や、日頃思っている要望などを会議形式で話し合い、その後お菓子を食べながらの雑談タイムでも、児童の気持ちを汲み取り、企画やルールに反映させた。

「メディアルーム」をテーマとする会議では、現行のパソコン使用ルール「1回 20分、1日3回まで」を「1回10分、1日6回まで」に変えてほしいという意見があり、それについて話し合った結果、変更を決定した。その後、しばらくして、ある児童が「順番はすぐ回ってくるようになったが、10分では短い」と、改正したルールに対し異議を唱えようとした。しかし、「委員会の場で、皆で話し合って決めたことだから『(提案した児童) 個人の問題』ではない。」という意見が優勢となり、話し合いで決めていくことの意義について、参加した子どもたちが認識を共有することとなった。

「乳幼児の保護者」に焦点を絞って行った会では、「公園に行きたい。」「遠足に行きたい。」「もっと、子どもと肌と肌が触れ合える企画に参加したい。」といった具体的な要望や、「いつも大変助かっている。」「子どももなんで～もが大好き。」という当館への感謝の声が多く出た。

実施月	活動	内容	参加人数	対象
7月 9月 10月 11月	本音で語ろう会 「ママのティー パーティー」	楽しかったことや、 やってほしいこと、 館への要望などを自 由に話し合う。	138人	乳幼児保護者
5月 6月 10月 12月	小学生 なんで～も委員会	やってみたい企画、 遊びや館内ルールな どについて意見を話 し合い、自分たちで 館の企画や遊びを主 導する。	58人	小学生

8 国際交流活動

今年度は「メキシコ」について学んだ。

特別活動

実施月	活動	内容	参加人数	対象
7月	ゲーム店出店	納涼祭に出店。ダンボ ールで作ったサボテン に、帽子を投げ引っ掛 ける、輪投げに似たゲ ーム店。	408人	全児童・保護者・ 地域住民・関係者など
11月	メキシコ料理の店	文化祭に出店。お店 スタッフを募集して、 タコス調理・ 販売	185人	全児童・保護者・ 地域住民・関係者など
2月	メキシコ料理体験	お菓子作り。チュロ スを作る	13人	小学生～中高生

9 高齢者施設（サン・サン赤坂）との交流活動

特別活動

月	活動	内容	参加人数	対象
5月	サン・サン赤坂 ツアー	「サン・サン赤坂」利用者との交 流及び高齢施設での活動について の紹介	96人	乳幼児～保護者 高齢者
6月	しゃぼん玉 あそび	ふれあい広場において「シャボ ン玉」遊びで交流	65人	乳幼児～保護者 高齢者
7月	七夕会	・デイサービスを訪問し、高齢者 と一緒に七夕飾り作りを行う。 ・竹笹への飾り付けを高齢者と一 緒に行う	46人	乳幼児～保護者 高齢者
	七夕飾りつけ	七夕飾り付けを高齢者と一緒に行 う。	6人	乳幼児～保護者 高齢者

8月	スイカわり	アリーナにてスイカ割りイベントを高齢者と一緒に楽しむ	145人	乳幼児～保護者 高齢者
	盆踊り交流	デイサービス行事への参加	67人	乳幼児～保護者 高齢者
	プラネタリウム交流	アリーナにおいて行うプラネタリウムを一緒に楽しむ	190人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民
	打ち水交流	毎週月曜日の午後、乳幼児用プールで使用する水を再利用して打ち水を行う。	46人	乳幼児～保護者 高齢者
9月	敬老会	サン・サン赤坂の各フロアを訪問	136人	乳幼児～保護者 高齢者
10月	ハロウィン交流	ハロウィンの仮装をして、サン・サン赤坂各フロアを訪問	132人	乳幼児～保護者 高齢者
11月	文化祭交流	・乳幼児グループ、小学生音楽クラブでサン・サン赤坂の各フロアを訪問 ・「赤坂いきいきプラザ」利用者の作品を展示	97人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民
	おやつ作り交流	サン・サン赤坂のデイルームにおいて、おやつを食べたりゲームをしたりして楽しむ	56人	乳幼児～保護者 高齢者
12月	クリスマスツアー	サン・サン赤坂の各フロアを訪問し、児童の音楽活動の発表を行う	26人	乳幼児～保護者 高齢者
1月	新年ごあいさつツアー	サン・サン赤坂の各フロアを訪問し、新年のあいさつ交流を行う	13人	乳幼児～保護者 高齢者
2月	もちつき	アリーナにて、もちつき行事を高齢者と一緒に行う。	156人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民
3月	春の交流会	アリーナにて、児童の活動の発表及び、デイサービス利用者による合唱の発表	64人	乳幼児～保護者 高齢者

10 地域交流活動、歴史・文化にふれる活動

【日常活動】

児童の健全な育成を図るため、小学校、中学校、保育園、幼稚園、民生児童委員、青少年委員、その他福祉施設などの地域施設や、関係者との連携に努めた。

具体的には地域懇談会の開催や、行事等での相互協力を通してプラザの専門性の地域への還元、児童の状況などの情報交換を実施した。

これらの活動を通して地域に開かれた施設運営を行うとともに、地域との協力、交流が進むよう、日常的に地域との連携を深める活動を行った。

定期活動

実施予定回数	活動	内容	参加人数	対象
5月	威臨丸(かんりんまる)探検隊	赤坂地区の和菓子屋「松月」さんを訪問し、和菓子について学ぶ。	22人	小学生 中学生 保護者
10月		赤坂区民センターを訪問し、ステージ舞台裏や舞台照明の操作方法を学ぶ。	13人	小学生 中学生 保護者
12月		TEPIA(先端技術館)にて、プログラミングを学ぶ。	14人	小学生 中学生 保護者
1月		みずほ銀行赤坂支店を訪問し、お金や銀行の役割などについて学ぶ。	14人	小学生 中学生 保護者
3月		近隣の公園へおでかけ。	40人	乳幼児とその保護者 (祖父母も含む)

特別活動

実施月	活動	内容	参加人数	対象
6月	赤坂小学校 PTA主催遠足	赤坂小学校PTA主催による遠足への引率の協力	職員 2人	赤坂小学校児童 保護者
9月	SWING 赤坂 2018	小学生によるバトン・ダンスの発表、 中学生によるバンドの発表、保護者サークルによるフラダンスの発表	69人	クラブ活動 参加児童
10月	みなと区民まつり	小学生によるバトンの発表 (台風の影響により2日目全面中止・代替えとして麻布子ども 中高生プラザにおいて発表)	30人	クラブ活動 参加児童と その保護者
	地域合同防災訓練	赤坂消防署新町出張所の協力のもと、サン・サン赤坂、地域住民との合同による利用者参加型訓練	69人	全児童・保護者・地域
	いきいきプラザ 展覧会	赤坂いきいきプラザ主催利用者展覧会への出品	50人程度	乳幼児～保護者 地域住民
6月・11月	地域懇談会	地域の町会等代表者、施設、児童福祉関係者との情報交換	45人	関係者

11 ボランティア活動

ボランティアの受入れについては、以下のような事業を実施した。

＜受入れ事業＞：地域から自発的な申し出があった場合、内容、希望等を確認し、港区児童館等運営マニュアルに沿って、よく検討した上で企画、実施した。

＜自主企画事業＞：当館の企画実施上、必要となる講師またはアシスタントに関して、本人の承諾を得た上でボランティアとして協力していただいた。

＜子どもによる自主的な活動＞：当館の子どもたちによる地域貢献ボランティア活動を実施した。

【企画活動】

＜受け入れ事業＞

実施月	活動	内容	参加人数	受入人数
通年(1回)	講師による企画	HONDA『ASHIMO 工作』	15人	5人
3月 (1回)	高校生による ミュージカル発表	東洋英和女学院高等部児童による ミュージカルの発表会	52人	18人

＜自主企画事業＞

実施月	活動	内容	受入数
通年(21回)	講師による企画	茶道体験、な～んでもお聞きします、英語 であそぼう、インターネット講習、琴・三 味線等	59人
通年(2回)	行事や企画の手伝い	納涼祭、文化祭	14人
通年(15回)	中高生居場所事業等	よるで～も、まなびちゃん、 バンドレッスン	16人

＜子どもによる自主的な活動＞

実施月	活動	内容	参加人数
7月・12月 (計3回)	子どもによる ボランティア活動	地域の独居高齢者へ送る暑中見舞・年 賀状づくり(みなとボランティアセン ター「かんがり」への協力)、地域清掃	16人

12 食育活動

【企画活動】

実施月	活動	内容	参加人数	対象
5月 2月	自由調理	フルーツワッフル、 キーマカレー	20人 17人	小学生～中高生
9月	陶芸と調理	丸皿作り・ 鮭のホイル焼き調理	15人	小学生～中高生

11月	講師企画	フルーツパフェ	15人	小学生～中高生
11月	保護者料理企画	お手軽クリスマス料理	18人	保護者
3月	特別企画	赤坂スイーツめぐり	16人	小学生～中高生
9月	乳幼児の自由調理	白玉だんごづくり	① 20人 ② 39人	①うさぎさんグループ ②こぐまさんグループ 親子
2月	乳幼児の自由調理	マカロニきな粉づくり	① 34人 ② 39人 ③ 26人	①りすさんグループ ②うさぎさんグループ ② こぐまさんグループ 親子

※ このほか、国際交流活動で「文化祭」出店、メキシコの料理作り開催

13 その他の活動

(1) 第三者評価

第三者評価については、平成28年度以降、指定管理期間のうち、中間年（3年度目）に1回受審することとなったことから、3年度目となった平成30年度に受審した。

評価機関による評価内容は、概ね高評価で、特段の指摘事項はなかった。

利用者やその保護者からのご意見の中には、思い当たる、もっともなご指摘もあり、これらに対しては謙虚に受け止め、順次改善を図っていきたい。

(2) 意見箱

プラザではキッズルーム、ラウンジに意見箱を設置し、広く利用者からの自由な意見を募っている。

児童からは、マンガの購入の要望や、企画の際にアリーナなどの部屋が締切り（閉室）になっていることに対する不満などが寄せられた。

保護者からの意見には、「本棚に埃がたまっている。」「おもちゃに電池を入れて欲しい。」「加湿器を置いて欲しい。」といった環境整備面の要望や、「一見さんや外国の方が片づけをしない。」といった他の利用者に向けた意見があった。

おもちゃに電池を入れることについては、人気の「プラ（プラスチック製）レール」（を使用した電車遊び）に電池を入れて動かす「プラ・タイム」という企画を始めた。加湿器は、直ぐに導入した。「片付け」については、お願いの掲示を分かりやすくし、声かけをするよう努めた。

(3) 苦情対応

プラザ内で受けた利用者からの苦情の申し出については、平成30年度はなかった。

なお、苦情があった場合は、真摯に受け止め、改善すべきは、改善策を講じていく。

(4) 広報活動

① 「なんで～もステーション」

毎月発行しているプラザの情報誌で、その月の行事や企画を掲載している。プラザのフロントで配布したほか、学校、保育園、幼稚園、地域の町会長・自治会長や民生・児童委員の方等への配布も行った。（2700部、館内配布は約200部）

英語版（表紙、乳幼児、小学生、保護者版）も毎月作成し、フロントで配布した。

②ホームページ

独自のホームページにより、随時、広報活動を行った。ホームページには、施設の概要や「なんで～もステーション」、台風時の対応等の最新情報・緊急連絡事項、サークルや「なんで～も委員会」の活動報告などを載せており、幅広い対象にプラザを紹介し、PRした。

また、利用者の要望により「FACE BOOK」のページを開設し、当館のステーション等の広報や年間行事の案内広報も継続した。

③『元気です』

社会福祉法人東京聖労院の広報誌。年3回の発行で、赤坂子ども中高生プラザ等で行われた行事の報告、行事の予定を掲載した。

(5) おもちゃの病院

毎月1回、専門のドクター（おもちゃ修理の先生）が港区内を巡回して来館し、壊れたり、動かなくなったりした利用者のおもちゃを修理し、再利用を図った。

実施月	活動	内容	利用人数
通年 (12回)	おもちゃの修理、再生	修理の技術を持った先生たちが、破損したり、動かなくなったおもちゃを診断し、治療し、機能を再生する。	94人

(6) アンケート

企画によっては、利用者にアンケートを取り、事業に取り入れるようにした。

企画名	アンケート内容	回答（実施）例
アリーナシアター	上映してほしい映画	ミニオン、ジブリ、ハリーポッターシリーズ、ハイスクールミュージカル 他
ラウンジ	新規購入本・マンガおもちゃ	キャット&チョコレート・ラブレター・ちはやふる 他

(7) 学校等との連携

①地域の公立小中学校、保育園とは、学童クラブ入会児童に関して、あるいは必要に応じて、先生方と日常的に情報交換を行い、連携を図った。

②赤坂小学校との連携

ア 赤小PTA 自然体験部が実施する野外活動の支援要員として、職員2名を派遣

イ 新入生オリエンテーションに、なんで～もを紹介するため職員を派遣

ウ 館長が、学校評議員として学校運営に参画

エ 平成30年度9月下旬～2月中旬 アリーナ天井等改修工事が実施され使用不可となったことから、工事期間中、クラブ活動の代替施設として、赤坂小の体育館および校庭を使用させていただいた。

③館長や職員が、学校の体育祭、文化祭等の行事や公開授業等に訪問し、学校での子どもの様子を参観し、日頃のコミュニケーションや児童の理解に役立っている。

- ④「サン・サンなんで～も地域懇談会」に、地域の町会・自治会長、行政機関、青少年健全育成団体の関係者のほか、幼稚園、小・中学校、保育園等の教育機関等の長を招き、ご意見を聴取し、児童館での活動（ムジカディバンピーノクラブ【合唱】・ダンスクラブ演技披露を含む）も紹介している。
- ⑤「放課 GO→クラブあかさか」とは、学童クラブ児童との合同行事を行い、児童同士の交流を行った。
- ⑥「あかさかいきいきプラザ」とは、いきいきプラザ「ほのぼの作品展」に、当館利用児童および保護者の作品を展示した。また、当館の「文化祭」においては、いきいきプラザ利用者の作品を展示するなどの連携交流を行っている。
- ⑦地域の公立保育園、私立保育園等とは、当館の乳幼児行事（キッズシアター、キッズランド等）に園児を招待し、当館利用乳幼児との交流を行った。

Ⅲ 赤坂子ども中高生プラザ学童クラブ（放課後児童健全育成事業）

1 学童クラブ事業

（1）運営方針

赤坂子ども中高生プラザの事業の一つとして、学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）を行っている。安全・安心な生活の場であるとともに、健全育成の場として、プラザ内に専用の部屋と担当の職員を配置し、運営を行った。

（2）子どもとの関わり

子どもたちが、安心してのびのびと生活し、活動ができるように配慮した。健やかに育つ環境をつくるため、くつろげるスペースを設置したりし、宿題など学習への声かけをするなど、子どもたちが生活のリズムを作り、自立心が育つよう、支援に努めた。学童担当職員が児童との結びつきや信頼関係を深めるように交流を図った。

子ども同士の関係についても、お互いが楽しく、気持ちよく過ごせるよう、児童同士のトラブルについても細かく対応するよう努めた。

特別な支援が必要な子ども（被虐待児童を含む。）についても、集団の中で安心して過ごせるよう、必要に応じて（マン・ツー・マンで）サポートするなど、配慮した。

また、アリーナ工事の影響軽減を図るため、館内の「ふれあい広場（中庭）」や近隣の氷川公園などを活用し、日常的に外遊びを取り入れ、思いきり体を動かせる機会を積極的に作るようにした。

そして、例年の夏・冬・春の外出に加え、今年度は秋にも外出を行った。

（3）家庭との連絡と相談活動

毎日の連絡帳でのやりとりや、年3回の保護者会、個人面談等を通して、日々の子どもの様子をご家庭に伝え、よりよい運営を行うために、保護者と情報交換した。その他、保護者からの相談に対して、真摯に問題解決に取り組み、配慮が必要な家庭についても、保護者と連携して柔軟かつ丁寧に対応した。

また、今年度の、秋の親子ふれあいイベントでは、アリーナ工事の影響により、例年より早い9月開催となったこと、実行委員になった保護者がすべて未経験の方だったことから、夕食は各自が持ち寄るなどとし、事前準備や後片付けをできるだけ減らすように工夫し、保護者への負担が少なく、参加しやすい形にして行った。そして、例年通り、花火やDVD鑑賞、保護者との懇談会を行いながら、保護者同士の交流にしっかり時間をかけたイベントになった。

その他の親子行事では、7月のプラザ行事の納涼祭において、学童クラブから「おえかきせんべい屋」を出店し、多くの保護者が参加、協力しあって、楽しい時間を過ごすことができた。

2 日常活動の報告

概ね下記日課表に従った規則的正しい学童クラブ運営を行った。

(1) 日課表

【学校がある日の例】

13:30~	来室 勉強タイム あそび
15:00	おやつ開始
16:00	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

【学校休業日などの例】

8:00~	来室 勉強タイム あそび
12:00	昼食の準備、 お弁当 片付け・休憩
13:00	あそび
15:00	おやつ開始
16:30	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

(2) おやつを提供

保護者から毎月預かるおやつ代を使用し、毎日午後3時から4時30分の間におやつを提供した。栄養面・安全面に配慮し、子どもたちが適切なエネルギー補給ができるよう工夫している。

アレルギーのある子どもに対しては、保護者に状況を確認した上で、別のメニューを用意するなど、個別の対応をとった。

また、毎週水曜日に、プラザ併設の高齢者施設の厨房で、手作りのおやつ（おにぎり・からあげ・焼きそばなど）を調理してもらい、子どもたちに提供した。メニューは、高齢者施設の栄養士や厨房の担当職員と話し合いながら毎月献立を決め、栄養面や子どもの嗜好を考慮して調理し提供した。これらのメニューは、保護者向けの学童クラブのお便り（「スター通信」）に毎月掲載し、お知らせした。

さらに、月1回のお誕生会の日には、厨房で調理したバースデーケーキを提供し、子どもたちのリクエストに応えたアニメのキャラクター等をデコレートしてもらうなど、子どもに喜ばれるよう工夫した。

(3) 安全の確保

保護者の協力を得ながら、出欠の把握を徹底するとともに、子どもたちに対しても安全確保の意識が高まるよう、日常的に指導をした。

5月上旬までは、学童クラブ担当職員が新一年生を対象に赤坂小学校への「迎え」、自宅付近まで（一ツ木公園方面・カンボジア大使館方面）延長して「送り」を実施し、これらを通じて、集団下校についての注意点等を指導した。

また、学童クラブに在籍する児童の居住地域が広範囲に及ぶため、児童の帰宅時の安全を図れるよう、年間を通じて、「5時帰り」、「5時45分帰り」の2つのグループに分け、職員が赤坂小学校まで、見守りながら送った。さらに、冬期（10月中旬～2月中旬）については、日暮れが早いことから、赤坂小学校の先（乃木坂駅付近・カンボジア大使館付近）まで、距離を延長して「送り」を行った。

(4) 家庭や学校等との連携

お便りの交換や、様々な話し合いの場を通して、学校や「放課GO→クラブあかさか」との協力関係を築いた。学童クラブの児童が個々に抱えている問題に関しては、お互いに情報交換し、多角的な視点で児童を捉えながら、速やかに解決を図っていけるように努めた。

また、災害や不審者との遭遇などの緊急事態が起きたときの下校時には、学校と密接に連携し、安全に対処できるよう臨機に体制を整備した。

(5) 子どもの様子

登録児童は30年度末時点で112名、日常的には平均60名前後の来室があった。学童クラブルームは、勉強をしたり、おやつを食べたりするほか、生活の拠点となる場所として、学年を超えた児童の集団で、多くの遊びを楽しんでいた。

昨年度に引き続き、第1学童クラブルームを低学年、第2学童クラブルームを高学年が使用することとした。高学年の居場所づくりへの配慮から、第2学童クラブルームは低学年の入室は不可としたが、第1学童クラブルームやプラザ内では、今までどおり学年を超えて交流する姿がみられた。第2学童クラブルームでは、自分や友人の部屋のようにくつろぐ姿がみられた。第1学童・第2学童クラブルームとも、室内には畳スペースなどをつくり、ゆっくりとくつろげるように配慮した。

低学年では、グループ活動として縦割り班を作り、各児童の座席を縦割り班になるよう指定し、自然な異学年交流を促した。高学年も手作りランチパーティーや外出の際には、少人数ずつ各班に分かれて入ってもらい、高学年として低学年をサポートする役割を果たしてもらった。

毎月のお誕生会のゲームでは、縦割り班を積極的に活用し、多人数の中で、年上・年下の子ども同士の交流が増え、学年を超えた縦のつながりが深まった。当館の学童クラブは、児童施設（プラザ）が併設されているので、クラブルーム内だけではなく、プラザ全体が遊び場となり、工作やスポーツ、パソコンなどの活動も各々自由に行っていた。

今年度も、学校からの下校後、来室にまだ不慣れな1年生のため、また、来室途中で度々ふざけてしまう児童を把握した際には、途中で遊んでしまったり、走って帰るようなことがないか、適宜、来室経路に立って見守り、事故やトラブルがないよう指導し、対応した。

3 学童クラブ年間行事・活動報告

月	行 事	内 容	人数
4	「なんで～もツアー」	新1年生が各部屋を回り、職員から使い方・ルールなどの説明を受けた。	18人(1年生)
	「みんなであそぼう」	友だち作りのきっかけになる集団ゲームを行ったり、テーブルごとにおやつをシェアしながら食べた。	59人
	誕生会	「イントロクイズ」を行った。	72人
5	誕生会	「〇×クイズ」を行った。	73人
6	個人面談(1年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。	24人
	誕生会	「インタビュー」を行った。	76人
7	誕生会	「7月生まれクイズ」を行った。	68人
	第1回保護者会	自己紹介を兼ねて、懇談を行った。会計監査委員の実行委員を選出した。子どもの様子を伝え、夏休みの過ごし方や、親子ふれあいイベントについて話し合った。	27人 (保護者)
	納涼祭出店	納涼祭に親子で「おえかきせんべい屋さん」を出店した。	39人
8	誕生会	「〇×クイズ」を行った。	56人
	「手作りランチ」パーティー	みんなで協力し、自分たちの昼食(おにぎりと味噌汁、サンドイッチ、タコライスとスープ、流しそうめんの4回)を作った。	延べ 218人
	夏外出	熱中症に十分配慮しつつ、多摩市の「アクアブルー多摩」に出かけ、プールで楽しんだ。	62人
	交流ランチ	サン・サン赤坂の高齢者と昼食を食べ交流し、高齢者への敬意と親しみを感じるようにした。(4回)	40人
9	誕生会	「ビンゴゲーム」を行った。	70人
	秋の親子ふれあいイベント	親子で綱引きや花火やDVD鑑賞を行い、アリーナに宿泊した。保護者との懇親会も行った。	67人
10	第2回保護者会	学童クラブでの夏休みを含めた児童の様子を紹介し、育成料についての説明を行い、質問・要望について話し合った。	17人 (保護者)
	誕生会	「自分クイズ」を行った。	66人
	個人面談(2・3年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。(宿題の状況について話すことが多かった)	7人
11	誕生会	「インタビュー」を行った。	67人
	秋外出	足立区の「ギャラクシティ」に出かけた。	60人
12	誕生会	「インタビュー」を行った。	66人
	クリーンプロジェクト&年越しパーティー	お昼に、厨房で作ってもらい「カレー」を食べた。おやつにパフェを作り、子どもたちの司会でゲームを行った。終わりに、クラブルームの大掃除を行った。	59人
	冬外出	水道橋の「デンキュー」に出かけた。	43人
1	誕生会	「謎解きゲーム」を行った。	55人
2	誕生会	「インタビュー」を行った。	59人
3	誕生会	「イントロクイズ」を行った。	53人
	第3回保護者会&親子ふれあいイベント	保護者会で会計報告と1年間の子どもの様子をスライドショーで上映し振りかえった。その後、サンドイッチロール作りを親子で行い、懇談をした。	45人
	お別れ遠足	浅草の「花やしき」遊園地へ出かけた。	60人
	お祝いパーティー	DVD鑑賞をし、昼食はピザやパスタ、おやつにはケーキを食べた。また、3年生の写真スライドショーを見て低学年の修了を祝い、第2学童への送り出しを行った。	62人

IV 平成30年度の事業を振り返って

1 プラザの運営

平成30年度も、「更に、賑わい溢れるプラザを目指す」ことを事業運営の基本に据え、運営を行なった。

「賑わい」の判断にあたり、具体的な指標となるものが、来館・利用者数である。

来館者数に関しては、アリーナが9月21日から平成31年2月18日まで、特定天井等改修工事（壁面にソフト緩衝材貼付、床面研磨・塗装・ラインの引直し、バスケットゴール取替を含む）のため約5カ月間使用できなかったことに因る利用者数の大幅減が見込まれたため、±0%を館の目標に設定し、職員に周知した。

アリーナ工事期間中は、クラブ活動や日常的なあそび場を確保するため、赤坂小学校の体育館・グラウンドや氷川武道場、隣接のサン・サン赤坂の会議室を借用し、或いは中庭（ふれあい広場）を活用するなどして、代替施設の確保に努めた。しかしドッジボールやバスケ、フットサルなどの硬い大きなボールを使用する球技については、代替施設を確保できる目途が立たなかった。また、工事期間が冬場を中心とする寒い時期と重なったため、中庭の利用にも限界があった。

こうした事情から、「アリーナ工事期間中」は、ほぼ全ての年齢層区分で、利用者数が大幅な減（対前年度比19.8%減）となり、また30年度「通年」では、対前年度比7.8%の減となった。

過去3か年のプラザの利用延人数の推移

年度	28	29	30
利用延人数	69,772	66,096	60,950
増減率	6.8	△5.3	△7.8

平成30年度の利用延人数の対前年度比の内訳は、高校生（106.2%）が増加したものの、幼児（90.4%）、保護者（93.1%）、小学生（93.4%）と来館数が減少し、中学生（70.6%）は、30ポイント近くの大減となった。

この要因としては、

- (1) アリーナが、工事のため約5カ月間使用できなかったことによる影響が大きく、改めて、アリーナが持つ魅力・強みを再認識させられる結果となった。
- (2) 高校生については、バンドの利用者が若干増加している。その原因としては、利用児童の多い高校では、部活の顧問教諭が校外施設での利用自粛を指導していたところ、顧問教諭が交代し、利用自粛の指導が解かれたことによる影響があると思われる。アリーナ工事に伴う利用者減を補って余りある結果となった。
- (2) 小学生は、1・4年生の利用が2ケタ台の大幅増となったものの、2・5・6年生は減少した。この原因としては、児童の塾や習いごと通いが盛んになってきていることなどが考えられる。
- (3) 中学生は、1年生の利用が大幅に伸びたものの、2、3年生の利用が2ケタ台の大幅な減となった。これは、課外部活動や塾への参加傾向が強まっていることからと思われる。児童数が少ない地元の赤坂中学校より、六本木中学や青山中学校生の利用が目立った。
- (4) 乳幼児及び保護者の減は、やはりアリーナ工事に伴う影響が大きい。

プラザでは、多彩なプログラムを用意し、飽きのこない事業運営を行ってきた。しかし、アリーナ工事の影響は、如何ともし難いほど甚大であった。

平成30年度は、新規企画として、

- ① 全年齢層対象企画では
「アリーナまた会いまSHOW」(9月)のほか、「職業体験和菓子屋さん」、「食育：赤坂スイーツ巡り」、「おいもの日」、「ミニお化けやしき」を実施した。
- ② 乳幼児・保護者対象企画では、
「キッズ・ブラ(レール)タイム」、「はいはいレース・赤ちゃん相撲」、「幼児才能発見講座」「キッズ・ピクニック」「東洋英和女学院高等部生による親子演劇(ミュージカル)鑑賞会」、・乳幼児の保護者対象企画として、「幼児才能発見講座」、・妊産婦対象企画としては、外部講師を呼んでの「マタニティ・ヨガ」、「骨盤ケア&ダイエット」、また・保護者対象企画では「保護者ハンド・ベル」を実施した。
- ③ 小学生対象企画では、
「みんなで遊ぼう(ミニ運動会)」「王様テニス・王様バドミントン」「卓球ランキング戦」「一輪車教室」「ダブルダッチ(ダブルの大縄跳び)」「フェアリーなんて～も(ダンス体操)」「公園へ行こう」「プログラミング入門」を行ったほか、クラブ活動として「ダンスクラブ」を開始した。また、職業体験企画として「介護士体験」を実施した。
- ④ 中高生対象企画では、
「中高生対象メディアシアター」、「中高生スポーツタイム」、公益財団法人「あすのば」とのコラボ企画「なんて～も委員会 新春スペシャル」(フィンランドの高校生も参加)
- ⑤ クラブ活動等では、
新たに「ダンスクラブ」を開始した。また「プラザ交流戦」に、新たに当館が呼び掛けて「卓球」を加え、実施した。

平成30年度は、乳幼児・保護者を重点対象として、事業展開してきたが、平成31年度は中高生をメインターゲットに据え、新たな事業展開を図っていくこととしている。

2 学童クラブの運営

平成30年度も児童・保護者とも信頼関係を築き、安全・安心に過ごせる児童の居場所づくりという基本を重視し、円滑な運営を目標とした。

平成30年度も、前年度どおり、児童定員が120人となった。これに対し、年度当初の入会者は、103名(1年生：24名、2年生：17名、3年生：30名、4年生：20名、5年生：10名、6年生：2名)、途中入会：12名、途中退会3名で、年度末在籍者112名(最大在籍児童数も112名)であった。近隣の赤坂小学校以外の学校(インターナショナル・スクールや国・私立小学校など)に通う児童が多く、あわせて21名の在籍があり、他のクラブと比較しても多い人数と言える。

そのため各学校の休校日等の予定にあわせ、職員体制を細かく調整・配慮した。

また、前年度の保護者会からずっと心配の声が上がっていた「アリーナ工事による子どもへの影響」について、軽減すべく、振替休校日に臨時で「秋外出」を行ったり、ボードゲームを増やしたり「ボードゲーム大会」を行ったりアリーナ以外の遊びを充実させる努力をした。外出は保護者・児童とも大変喜ばれた。ボードゲームに関しても、学年関係なく遊びに加わっていき、新しい輪が広がった。

学童の一大イベントといえる保護者主催の「親子ふれあいイベント」でも、アリーナ工事の関係で実施時期や実施内容の変更が必要となり、開催自体が危ぶまれたが、保護者会での話し合いで、日程と大枠を決定し、実行委員のみなさんが前例にとられることなく工夫し、無事に開催することができた。「やっぱり親子ふれあいイベントがあってよかった」「大人も子どもも良い思い出ができた。」との声が多く聞かれた。30年度も、保護者との関係性は概ね良好に運営できたと捉えている。

運営面では、児童の安全・安心な児童の居場所として、年間を通じて円滑・順調に運営することができた。

今後も保護者と連携しながら、児童にとって心地よく安心できる居場所であるよう努めていきたい。

3 事業・企画の運営体制

平成30年度は、前々年度から実施している「対象児童の年齢層別」の職員グループ制（職員が、プラザの「キッズ（＝乳幼児）」、「小学生」、「中高生」担当、それに「学童クラブ」のいずれかのグループに属する）を維持し、また「学童クラブ」を除き、引き続き担当者が各グループの日常活動に参加する「相互乗り入れ」方式も維持し、3年目に入って定着している。その結果、殆どの職員が児童館業務のどの年齢層にも抵抗感や苦手意識を持たずに対応できるようになってきている。

4 館内外で発生した事故

平成30年度の怪我に起因する事故は、「児童館内での身体的な事故」が6件、館外での同事故（外出行事中に猫に噛みつかれた事故）が1件で、前年度（6件）より1件多い、7件であった。

「館内の身体的事故」のうち、骨折に至るような大けがの事故は発生しなかった。なお、縫合処置を受けるほどの怪我は、幼児の1件（後頭部2針縫合）あった。

館内発生事故としては、アリーナでのスポーツ中の捻挫、切創といった軽傷事故が4件あり、うち2件は中高生のバスケット中の捻挫、1件は親子交流バスケット行事での母親の靭帯損傷、1件は小学生によるサッカー中の転倒に伴う擦過傷であった。

このほか、キッズルームでの事故が2件あり、上述の縫合処置を受けた事故のほか、滑り台下で、母親との衝突による唇切創が1件あった。

受傷者・保護者へは、保険や区の見舞金制度についても説明しご案内するなど、適切に対応したこともあり、苦情は生じなかった。

いずれも咄嗟の出来事で、職員がいても防ぎきれなかった。

発生後は、保護者及び保護者同伴中の幼児の事故、中高生の事故を除き、職員がすぐ保護者に電話連絡等して経緯説明と謝罪をし、当該児童を近隣の医院に連れて行き付き添うなどしたうえで、保護者に引き渡した。

これらの事故に対しては、総合支所とも連携をとり、保護者に対し事故当時の状況や館としての対応、保険や見舞金制度等を丁寧に説明するなどの対応を行ったことにより、苦情には至らなかった。また、利用者と職員との日頃の良好な信頼関係がベースにあることも、苦情には至らなかった要因と考えられる。

今後は、引き続き児童に対する見守りを更に強化し、可能な限り事故防止に努めるとともに、事故の未然防止に向け必要な対策を講じるなど、より一層安全・安心に過ごせるプラザを目指していきたい。

なお、怪我を伴わない事故（アクシデント）は、1件あった。これは、自然災害に伴うもので、敷地内角の巨木（大銀杏）の太い枝（太いところで、直径30センチ程度）が、台風に伴う強風に因り枝折れ倒木したものであった。

倒木は、支所や近隣居住者の機転により早目に措置・撤去されたことから、人的な被害は生じなかった。